

毎週火、金曜日発行（但休日^に当るときは翌日）
昭和四年四月十五日第三種郵便物認可

鳥取県公報

目次

- ◇告示 定期種畜検査の実施
- 種畜証明書の返納
- 肥料の登録
- 町村合併に関する計画
- 漁港管理者の指定
- 種畜証明書有効期間の延長
- 炭素予防注射の実施
- 土地收用法による土地細目の公表
- 土地改良事業計画の認可

昭和三十二年定期種畜検査日程

第一班

第一次検査	第二次検査	郡市	町	村	場	地	所	家畜の種類	摘要
四、五	四、八	鳥取市	吉方	鳥取家畜市場				和牛、乳牛、めん羊、山羊、豚	

土地改良区役員^の退任及び就任
保安林の指定予定

◇教委告示 定例教育委員会の招集

◇教委告示 定例教育委員会の招集
県立高等学校の設置
県立高等学校の校名、位置及び課程の一部改正

◇公告 あん摩師、はり師、きゆう師試験の合格者

告示

鳥取県告示第百五十号

定期種畜検査が次のように実施される。

昭和三十二年四月五日

鳥取県知事 遠藤 茂

第二班	検査日期	郡市	町村	検査地	家畜の種類	摘要
	六	岩美郡	岩美町	浦富	"	"
	七	鳥取市	古海	古海	"	"
	八	気高郡	気高町	浜村	"	"
	九	八頭郡	船岡町	船岡	"	"
	十	"	"	"	"	"
	十一	"	若桜町	若桜家畜検査場	"	"
	十二	"	用瀬町	用瀬家畜市場	"	"
	十三	"	智頭町	智頭	"	"
	十四	"	東郷町	東郷	"	"
	十五	東伯郡	東郷町	東郷	"	"
	十六	倉吉市	東郷町	倉吉	"	"
	十七	"	東郷町	倉吉	"	"
	十八	東伯郡	関金町	関金	"	"
	十九	"	関金町	関金	"	"
	二十	"	東伯町	浦安	"	"
	二十一	"	赤碕町	赤碕	"	"
	二十二	"	赤碕町	鳥取種畜牧場	"	"
	二十三	"	赤碕町	鳥取種畜牧場	"	"
	二十四	"	赤碕町	鳥取種畜牧場	"	"
	二十五	"	赤碕町	鳥取種畜牧場	"	"

和牛は新願牛のみ

和牛は新願牛のみ

第一次検査	第二次検査	郡市	町村	検査地	家畜の種類	摘要
五、	四	西伯郡	大山町	所子家畜保健衛生所	和牛、馬、めん羊、山羊、豚	"
三	五、	"	名和町	御来屋家畜市場	"	"
二	六	"	淀江町	淀江家畜市場	"	"
一	七	境港市	竹内	余子家畜検査場	"	"
"	八	西伯郡	西伯町	法勝寺家畜市場	"	"
"	九	米子市	勝田町	米子	"	和牛は新願牛のみ
"	十	"	"	"	"	"
"	十一	日野郡	溝口町	溝口	"	"
"	十二	"	江府町	江尾	"	"
"	十三	"	伯南町	三栄	"	"
"	十四	"	根雨町	根雨	"	"
"	十五	"	"	"	"	"
"	十六	"	"	"	"	"

鳥取県告示第百五十一号
次の種畜は廃用された。

昭和三十二年四月五日

和牛は新願牛のみ

鳥取県知事 遠 藤 茂

種畜証明書番号 名号 品種 飼養者住所氏名

昭三二鳥取一第五五号 栄信 黒毛和種 鳥取県倉吉市中河原 中垣覚次郎

鳥取県告示第百五十二号

肥料取締法（昭和二十五年法律第百二十七号）第七条の規定により次の肥料を登録した。

昭和三十三年四月五日

鳥取県知事 遠 藤 茂

登録番号	肥料の名称	保証成分量（パーセント）	住 産 業 者
鳥取県第二四七号	赤碕水稻複合肥料	○窒素全量 七・二 ○内アンモニウム性窒素 七・〇 ○磷酸全量 八・〇 ○内可溶性磷酸 七・〇 ○内水溶性磷酸 七・四 ○加里全量 七・一 ○内水溶性加里 七・一	東伯郡赤碕町字赤碕 赤碕農業協同組合 一、四六三 組合長理事 前田 豊秋
鳥取県第二四八号	浅津水稻一号複合肥料	○アンモニウム性窒素 九・二 ○可溶性磷酸 五・八 ○内水溶性磷酸 五・七 ○水溶性加里 一・五	東伯郡羽合町字下浅 浅津農業協同組合 津一九三 組合長理事 本多不二雄

鳥取県第二四九号 浅津水稻二号複合肥料

○アンモニウム性窒素 一〇・〇
 ○可溶性磷酸 七・〇
 ○内水溶性磷酸 五・七
 ○水溶性加里 九・五

西伯郡伯仙町

鳥取県告示第百五十三号

新市町村建設促進法（昭和三十一年法律第百六十四号）第二十八条第二項の規定に基き次のとおり町村合併に關する計画を定め昭和三十三年三月三十日關係市町村に勸告した。

昭和三十三年四月五日

鳥取県知事 遠 藤 茂

合併計画による市町村

- 一 八頭郡用瀬町
- 同 佐治村
- 二 東伯郡東郷町
- 同 泊村
- 三 西伯郡西伯町
- 同 会見町
- 四 米子市

鳥取県告示第百五十四号

漁港法（昭和二十五年法律第百三十七号）第二十五条第一項の規定により酒津港外四港の漁港管理者を次のように指定したので同条第五項の規定により告示する。

昭和三十三年四月五日

鳥取県知事 遠 藤 茂

漁港の名称	種類	所在地	管理者
酒津	一	氣高郡氣高町大字酒津	氣高町
船磯	一	氣高郡氣高町大字八束水	氣高町
平田	一	西伯郡大山町大字平田	大山町
淀江	一	西伯郡淀江町大字淀江	淀江町
渡	一	境港市渡町	境港市

上米積	大字	倉吉市地内	地番	地目 台帳現況	土地所有者	関係人
	字					
江下	一八二の二	田畑	倉吉市上米積二五七	矢田由基雄	なし	
"	十七日	"	"	"	"	
"	十八日	"	"	"	"	
"	十九日	米子市	"	"	"	
"	二十二日	"	"	"	"	
"	二十三日	西伯郡西伯町	"	"	"	
"	二十四日	"	"	"	"	
"	二十五日	"	"	"	"	
"	二十六日	"	"	"	"	
"	二十七日	岸本町	"	"	"	
"	"	日吉津村	"	"	"	

鳥取県告示第百五十七号

土地収用法（昭和二十六年法律第二百十九号）第三十一条の規定により土地細目の公告について申請があつたので、同法第三十三条の規定により次のとおり告示する。

昭和三十三年四月五日

鳥取県知事 遠 藤 茂

- 一 起業者の名称
建設大臣
- 一 事業の種類
天神川改良工事及びこれに伴う附帯工事
- 一 起 業 地
鳥取県倉吉市上米積及び下米積地内
- 一 収用しようとする土地の所在、地番及び地目並びに土地所有者及び関係人の氏名及び住所

鳥取県告示第百五十五号		
昭和三十一年に実施された定期種畜検査に基き、種畜証明書を交付されたものうち、その種畜証明書の有効期間が昭和三十三年定期種畜検査実施の日前に満了するものについては、その種畜証明書の有効期間が家畜改良増殖法（昭和二十五年法律第二百九号）第六条第二項の規定により、昭和三十三年定期種畜検査の日まで延長された。		
昭和三十三年四月五日	鳥取県知事 遠 藤 茂	
鳥取県知事 遠 藤 茂		
昭和三十三年四月五日	鳥取県知事 遠 藤 茂	
鳥取県告示第百五十六号		
次のように炭を予防注射を実施するから家畜伝染病予防法（昭和二十六年法律第六十六号）第六条の規定により牛、馬の所有者に対して予防注射をうけることを命ずる。		
昭和三十三年四月五日	鳥取県知事 遠 藤 茂	
一 実施の目的	炭を予防のため	
二 実施の区域	別表のとおり	
三 実施の対象となる家畜の種類及び範囲	牛、馬 但し生後三箇月以内、分娩前後一箇月以内及び三十三年三月本予防注射を実施したものを除く。	
四 実施の期日	別表のとおり	
五 注射の方法	炭を第二予防液皮内注射法	
別表		
実施月日	実施区域	実施場所
四月 十七日	気高郡気高町 (旧宝木村)	同上
" 十八日	鹿野町 (旧勝谷村)	"
" 十五日	西伯郡岸本町	(旧大幡村)
" 十六日	米子市	(旧幡郷村)
" " "	"	(旧春日村)
" " "	"	(旧成美村)
" " "	西伯郡伯仙町	(旧県村)

教育委員会告示

鳥取県教育委員会告示第十二号

定例教育委員会を次のとおり招集する。

昭和三十二年四月五日

鳥取県教育委員会委員長 米原 穰

- 一日時 昭和三十二年四月六日 午後一時
- 一 場所 米子市西町三六ノ一 鳥取大学医学部内
- 一 議題 1 市町村教育委員会教育長の承認についで
2 その他

鳥取県教育委員会告示第十三号

昭和三十二年四月一日から県立高等学校を次のとおり設置した。

昭和三十二年四月五日

鳥取県教育委員会委員長 米原 穰

一 新設高等学校名称

鳥取県立鳥取商業高等学校

二 場所

鳥取県鳥取市東町三番地

鳥取県教育委員会告示第十四号

昭和二十九年二月鳥取県教育委員会告示第十三号（県立高等学校の校名、位置、及び課程）の一部を次のように改正し、昭和三十二年四月一日から実施した。

昭和三十二年四月五日

鳥取県教育委員会委員長 米原 穰

表中

の次に

を加える。

鳥取商業高等学校

全日制

商業科

商業課程

鳥取市東町三番地

鳥取西高等学校

全日制

普通科 家庭科 商業科
普通科 家庭科 商業科
(夜間)

普通科 家庭科 商業科
普通科 家庭科 商業科
課程

鳥取市東町三番地
鳥取市東町二番地
鳥取市東町三番地

公告

昭和三十二年三月二十二日及び二十三日に施行したあん摩師、はり師、きゆう師試験の合格者は次のとおりである。

昭和三十二年四月五日

鳥取県知事 遠藤 茂

あん摩師試験合格者

田中 幸恵

山本 博行

はり師試験合格者

田淵 茂三郎

本村 欣三

きゆう師試験合格者

田淵 茂三郎

本村 欣三

田村 親恵

木下 公男

由田 稔

